

「教員になりたい！と思ったら、まずは行動してみてください」

(上原理紗さん)

■家庭科教諭になりたいと思ったきっかけは？

一言でいうと、家庭科が好きだったから！家庭科教諭になりたいと思ったのは、高校3年生の時でした。卒業後の進路に迷っている時に、「自分が勉強していて楽しいと思えることはなんだろう？」と考え、「好きな家庭科の内容をもっと深く学びたい」と思い、和洋女子大学の家政福祉学類※に進学を決定。まだ、その時には将来、どのような仕事をしたいかというはっきりとした夢はなかったのですが、教員という職業にはずっと興味があり、「将来やりたい仕事」の候補には常に入っていました。卒業生の就職先に「家庭科教諭」という記載を見つけ、そこで初めて「家庭科教員になりたい」という目標がうまれました。

(※2018年4月より、和洋女子大学は学群・学類から学部・学科に名称変更しました)

■どのような授業が印象に残っていますか？

たくさんあるのですが、特に印象に残っているのは、「基礎調理学実習Ⅰ・Ⅱ」です。初めて作る料理や初めて使う調理道具が多くあり、とても楽しく学ぶことができました。今、振り返ってみると、授業中の先生の指示の出し方や、片づけの仕方、道具の扱い方や注意していただいた点などは自分が教員になったときにも役に立つなと感じています。

■教員採用試験に向けて工夫した点を教えてください

私は「家庭科教諭になりたい！」と思って大学に入学したので、「とにかくできることは何でもやる！」と決めていました。教職セミナーには1年次から参加し、2年次には国府台小学校でのボランティア活動に参加、3・4年次では「ちば！教職たまごプロジェクト」(教職インターンシップ)の研修にも参加しています。そのほかにも、大学で開講している教員採用試験の対策講座に参加するなど、とにかく与えられた機会を最大限に活かそうと思い、行動して学んできました。

■どのような教員になりたいですか？

生徒1人ひとりの長所を見つけ、それを伸ばせる教員になりたいです。また、常に生徒のことを1番に考え、信頼される教員になりたいと思っています。夢は、生徒たちに家庭科を学ぶ楽しさを実感してもらうことです！

■後輩たちへのメッセージ

教員になりたい！と思ったら、まずは行動してみてください。先生に相談してみる、ボランティアに行ってみる、採用試験の問題を解いてみる、中学・高校の教科書を開いてみる、

どんなに小さなことでもいいので、まずは行動してみる事が大切です。小さなことの積み重ねが大きな結果に繋がります。数年後の自分のために、今、頑張りましょう！